企業・団体

NEC NECソリューションイノベータ株式会社

事　業

おおやアグリ支援クラウドプロジェクト（兵庫県養父市様）

概　要

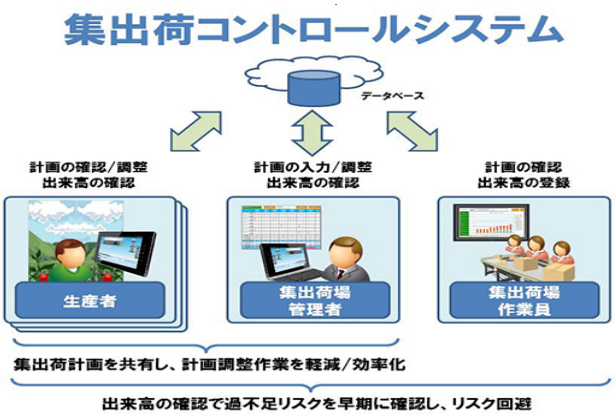
安定的な供給が求められる農作物の出荷計画立案を支援するシステムを開発し、おおや高原で実証実験。

本プロジェクトは、農研機構生研センターが実施する「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業」において、「高度な計画出荷を可能にする集出荷コントロールに関する研究」として採択されました。

農作物の国内出荷量の約 70%を扱い全国約 9,500 カ所にある集出荷場では、農作物の生育状況や出荷予定量を電話やメールで各生産者に日々確認して集出荷計画を作成・調整しており、この作業の負荷が高くなっています。また、出荷直前の計画変更は収穫の追加や抑制など突発的な対応作業やコストが発生し、集出荷場と生産者の負担が大きくなります。生産者からは、集出荷場が管理している全体の集荷量の把握や報告作業の簡易化を求める声も上がっています。

そこで上記の課題を解決するため、タブレット端末を活用した「集出荷コントロールシステム」を開発し、システム評価のため兵庫県養父市の「おおや高原有機野菜部会」にて 2014 年 10 月に実証実験を行いました。

イメージ図



システムの特長

①日々の集出荷計画を集出荷場と生産者がクラウドで共有し、相互に調整することで従来の煩雑な計画調整作業を省力化。さらに生産者はタブレット端末等で圃場から計画を入力・確認することが可能です。

②出荷当日の集荷量からの推定出来高をリアルタイムで可視化。出荷計画に対する過不足を把握し収穫の追加・抑制の必要性を知らせることで、計画出荷量を確保するための対応作業を軽減し効率化できます。

※本実証実験は農研機構・生研センター「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業」の支援を受けて行いました。

（参照：http://www.nec-solutioninnovators.co.jp/sl/shushukka/）

効果・成果

以下の機能について効果を測定。

■日々の集出荷計画を集出荷場と生産者がクラウドで共有・調整する機能

■出荷当日の推定出来高をリアルタイムで可視化し、収穫の追加や抑制の必要性を知らせる機能

①出荷日までに集出荷計画の調整に要する期間の短縮

品目平均で 4.6 日→3.5 日（24%減）

出荷計画数が最も多いホウレンソウでは、最大の 5.5 日→2.8 日（50%減）

②評価期間における集荷量の計画変更回数の減少

生産者一人につき 6.0 回→5.3 回（12%減）

③評価期間における計画調整コストの削減

上記①②の結果より、時間換算の計画調整コスト 24%減を試算

担当部署

日本電気株式会社　関西支社　（大阪市中央区城見 1-4-24 NEC 関西ビル）
担当者:事業推進部　新事業営業グループ　相澤、池田　Tel:06-6945-3157　Mail: y-ikeda@cb.jp.nec.com
URL：http://jpn.nec.com/